

市長とミライとーく 報告書

令和6年5月7日

日 時	令和6年4月30日（木） 13:30～15:00		
会 場	関市役所7階 つなぐガーデン（関市若草通3丁目1番地）		
対 象 者	関市在住の女性	参加者	18人
テ ー マ	「女性視点の避難所について」		
担 当 課	市長公室 危機管理課		

テーマ①『災害時に怖いと感じること』

【地震】

- ・家族がばらばらの時（外出中）に起きたら、どうしたらよいか分からないこと
- ・子ども、高齢者を連れて、避難所まで避難できるのか
- ・家具が倒れてくること
- ・誤情報の流出が起こりうること
- ・断水時、幼児に対しても、汚れた水を使わなくてはならないこと
- ・障害がある人や独り身などの場合、避難先で存在が無視されること
- ・パニックになってしまい、何も考えられなくなること
- ・夜間発生時の避難時や、避難所での明かりが確保されているかが不安

【風水害】

- ・水が徐々に押し寄せてくること

テーマ②『普段使いの物で、使えないと困るもの』

【避難時にすぐに影響を与えるもの】

- ・生理用品 ・紙おむつ ・粉ミルク ・薬（持病）※予備を大量にもらえないので、備蓄しにくい

【それ以外】

- ・衛生用品（歯磨き粉など） ・温かい食事 ・着替え ・眼鏡 ・上履き、体育館シューズ
- ・マイカップとコーヒー（ルーティンのため） ・甘いもの ・ペット用フード
- ・子どもが食べるおやつ（ボーロなど） ・子どもが安心できるライト（ミッフィーなど）
- ・子どもの気が紛れるもの ・電池なしで遊べる簡易遊具（滑り台など）
- ・ハンドクリーム ・カイロ ・保湿剤 ・帽子

テーマ③『避難時に困ること、心配なこと（解決案）』

【外出中の地震に対してどこに避難していいか心配】

案1・施設の間取りを、入館時に把握する。広間を見つけて、集合場所とする。

案2・備蓄品も常に車に積んでおく。

【子どもや高齢者を連れて避難所に行けるか心配】

案1・避難所までを普段の散歩コースにしておく。

案2・地域のつながりを大切に、周りの人と行動できるようにしておく。

⇒地域のつながりに対して、意見あり（武芸川地域）

高齢者が多く、若年層に役がすぐ回ってきて負担となっている。「女性会」などこのような状態で、避難所運営ができるのか心配

⇒近隣自治会との統合も検討が必要。市からも自治会統合を推進してほしい。

案3・避難所を学校区で考えず、地域ごとに考える。

【避難所での性被害】

案1・避難所での空間スペースを、女性のみ、子連れファミリー、ペット同伴、等分ける

案2・避難所でのルール作りの段階から、女性が入った方がよい。

【担当課の考え】

今回の参加者は女性限定としたが、年齢層は幅広く、若い世代（子育て世代）が抱えている不安に、年配者が回答しているシーンが度々見られた。どうしても普段のつながりは同世代間となり、同じ悩みに対して回答がでないことがあるが、別世代の意見を交えることで、多様な意見が交流できたと感じられた。また、避難時に子どもを連れてくる想定や独り身の女性が避難所で生活するなかでの不安点など、女性視点ならではの意見が多く、市においても、避難所運営の際の参考になる。限られた時間の中で、挙がったすべての不安点等に対して協議はできなかったが、参加者間での問題意識の共有化はできたと認識している。この会を通じて、自助の推進並びに、共助への働きかけを期待する。

【今後の対応】

- ・避難訓練を日常に組み入れることの推奨（車に備蓄品、散歩コース見直しなど）
- ・避難所での明かり確保の見直し（足元を照らす用のランタンなど）
- ・着替えの備蓄に代わる、水のいらぬ洗濯機の検討
- ・避難所開設時の、スペース確保やルール作りに対する考え方の職員への周知

【当日の様子】

